

空とぶ てんとう虫



小麦トラスト最後の意見交換会 3月11日(日) 札幌市かでの2-7
 生産者・メーカー・消費者が一堂に集い和やかな雰囲気の中でトラストへの思いやゲストの荒谷明子さん(メノビレッジ長沼)の実践例を聞きながら北海道農業の明日を熱心に語りました。



大豆トラスト「大豆料理ビュッフェ」2月25日(土) 会場 白石区 えこふりい
 18品の大豆料理を前に参加者は大満足。大豆の美味しさ発見で料理のレパトリーも広がり、大豆トラストへの参加申し込みも！

発行

NPO 法人 北海道食の自給ネットワーク
 札幌市東区北15条東18丁目2-17 (有)ワードエム内
 TEL (090) 2818-5502 FAX (011) 789-8890

ホームページアドレス
<http://jikyuu.net>
 E-mail: info@jikyuu.net

戦後最大の岐路～ 日本はTPPとどう向き合うか

北海道新聞社 編集局編集委員 久田 徳二 誌

日本は戦後最大の重大局面を迎えたと言っても過言ではありません。震災・原発事故と環太平洋連携協定(TPP)のためです。TPPは従来の貿易自由化問題をはるかに超える「国のかたち全体を変える問題だ」とのJA全中の見方は、外れてはいないと、私は思います。

●P4とTPP

TPPとは何かについて最初に少しだけ説明します。Trans-Pacific Partnershipの頭文字をとったもので、自由貿易協定(FTA※1)の一つ。太平洋を取り巻く国々が、貿易を活発にする目的で、加盟国間の関税撤廃などを取り決めるものです。

2006年にシンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドの4カ国で発足した時の協定は「P4協定※2」と呼ばれ、これがTPPの原型です。条文には①関税撤廃②非関税障壁撤廃③政府調達④サービス貿易-などがあります(詳しくは後述)。

2010年に米国、豪州、ペルー、ベトナム、マレーシアが参加。計9カ国がP4協定を土台に、今年中の締結を目指して交渉しているのがTPPです。P4協定にない分野も対象です。①電子商取引②投資③分野横断的事項-などです。

このうち「投資」では、投資家が投資相手国と紛争が起きた時に国際機関に訴えることができる内容の「投資家・国家間紛争手続き(ISDS※3)条項」が、「分野横断-」では食品安全基準の緩和などが問題となっているとみられます。

●5つの特徴

交渉も協定文も非公開なので、詳細は不明ですが、分かっていたいくつかの問題を整理しておきます。

9カ国が目指している協定の特徴として五つを挙げられます。

第一に「例外なき関税撤廃」が原則であること。これは今までのFTAになかったものです。P4では例えばブルネイの石油製品、チリの小麦、ニュージーランドの繊維類などが「10年以内に撤廃」ですが、ほかの商品は「即時撤廃」です。

第二は「非関税障壁の撤廃」。関税以外の方法で貿易を妨げる要素を無くすことです。日本の非関税障壁と指摘されているのは米国産牛肉の輸入規制※4、食品添加物・残留農薬基準※5、遺伝子組み換え食品の扱い※6など数多くあります。

第三は「政府調達」。政府や地方自治体が購入する物品やサービス、工事契約などのことですが、受注、納入を外国企業に開放するのが狙いです。例えば都市開発の計画づくりや道路建設工事に外国企業が参入しやすく、入札条件を緩和するなどの内容です。

第四はサービス貿易。他国のサービス提供者に対し、自国内より不利でない待遇を与えるよう求めています。対象は通信、建設、流通、環境、金融、保険、観光、運輸な

どの11。かなり広い分野で参入が狙いです。

そして五番目に「ISDS条項」。これは既存のFTAのうち、北米自由貿易協定(NAFTA※7)などに盛り込まれ、すでに紛争・提訴の事例が多く生まれています。

例えば米企業による廃棄物処理場建設を拒否したメキシコ側に対し、同企業がNAFTA違反で国際投資紛争解決センター(ICSID※8)に訴えた事件。ICSIDは、「環境保護のため」との地元自治体の主張を退け、メキシコ政府に1670万ドル(約13億円)の賠償を命じました。

投資家から提訴されているのは、法制度が未整備な発展途上国が過半数を占め、2010年末までで390件に達しています。「投資家に国内法よりも有利な権利を与え、被提訴国の主権を侵害しかねない」と専門家などが指摘しています。

●日本への影響

日本にとってのメリット、デメリットに関しては政府内でも諸説があります。経産省は、日本が不参加の場合に輸出額が8兆6千億円、国内生産が20兆7千億円減少すると試算。内閣官房は、日本が参加した場合のGDP押し上げ効果を2兆4千億円～3兆2千億円としています。

一方、農水省は日本参加の場合、農産物生産が4兆1千億円減少すると試算。関連産業を含めると計7兆9千億の減産、340万人が職を失うとしています。水林産物は関連産業を含め5400億円の減産。食料自給率は現在の40%から13%に減る予測です。

昨年11月に外務省が「TPP協定において慎重な検討を要する可能性がある主な点」(同省HP)を発表しました。いくつか拾ってみますとー。

▽物品市場アクセス…「わが国が締結してきたEPA※9において、常に除外または再協議の対象としてきた農林水産産品(コメ、小麦、砂糖、乳製品、牛肉、豚肉、水産品等)を含む940品目について関税撤廃を求められる」

▽貿易の技術的障害…「遺伝子組み換え作物の表示などの分野でわが国にとって問題が生じる可能性がある」

▽政府調達…「調達基準額の引き下げが求められる場合が想定される」

つまり、一次産業などの面へのマイナスの影響を、外務省も懸念しているのです。

●北海道への影響

その影響は北海道で最も大きく表れるとみられます。一次産業が基幹産業だからです。少し詳しく見てみましょう。

農水省は、関税が全品目で撤廃された場合、コメは「新潟産コシヒカリ、有機米等のこだわり米等を除いて(輸入米に)置き換わる」として、生産量の90%(1兆9700億円分)が減少すると予測しています。

同様に各品目の生産量減少率は小麦で99%、テン菜など甘味資源作物やジャガイモなどでんぷん原料作物は100%、牛乳乳製品は56%、牛肉は75%です。

道が道内農業への影響を試算しました。コメ、小麦、テン菜、でん原イモ、酪農、肉用牛、豚の7品目の減産額は計5563億円。これは農業生産額の半分強にも相当します。加工など関連産業の減産が5215億円、地域経済への影響は9859億円で、影響額合計は2兆1254億円。農家は3万3千戸減り、雇用は17万3千人減る予測です。コンブ、ホタテなど主要水産物6品目の生産減少額は530億円(生産額の2割程度)です。

逆に、道産品の輸出拡大が期待される、との声も聞くことがありますが、道は「本道の大口の輸出相手国である韓国、中国などが参加していないため、大きな効果は期待できない」(「TPP協定の影響に関するQ & A」)と否定的です。

これらの影響予測がおおむね当たっているとしたら、道内各地は深刻な打撃を受けることになります。地域が崩壊する危険もあります。これまで営々と積み上げてきた品種改良や技術開発の努力、一次産業振興と地域づくりに流した汗が、台無しになりかねません。

●医療や雇用

影響は一次産業分野内にとどまらないでしょう。医療に関しては日本医師会が①医薬品公定価格の撤廃・緩和による薬価高騰と保険財政悪化②株式会社の病院経営参入と混合診療の解禁、米国の医療保険の参入拡大一などの影響を重視し、TPP参加に反対しています。

道も「公定価格制度が崩れ、公的医療保険制度が脅かされる懸念」を指摘。政府は「TPPで公的医療保険制度が議論される可能性は排除されない」としています。

昨年2月の日米経済調和対話で米国側は「関心事項」として次のようなものを挙げました。「日本郵政グループに追加的な競争上の優位性を与えないように」「共済と民間競合会社の間で、規制面での同一の待遇及び執行を含む対等な競争条件を確保する」。郵便貯金、簡易保険、農協共済など国民資産を抱える貯金・保険システムとの対等競争、つまり参入を狙っているとみられます。

雇用はどうなるでしょうか。道内の一次産業が縮小したら、農家も加工場も減り、運輸や流通など広い分野で仕事が減るでしょう。また「政府調達」の扱いによっては、公共事業への外国資本の参入が拡大し、地元業者が受注できない事態も生まれるでしょう。「サービス貿易」の協定内容によっては、医療や建設など広い分野に低賃金外国人労働者が流入し、日本人の失業も予想されます。

そもそも、食品や工業製品を含めて安い外国製品が大量に輸入されるようになると、物価全体が下がります。それに引っ張られて賃金や雇用が減る影響が考えられます。つまり、デフレが悪化し、経済が一層冷え込むのです。

●TPPの背景

リーマンショック後の米国は今、深刻な経済危機を抱えています。多国籍企業が、低賃金労働者を使って途上国で生産し、購買力のある国で売って巨額の利益を得ている一方、国内産業が空洞化し、福祉低下や失業増で国民生活が悪化、貧富の差が拡大しています。

国内総生産や貿易額で9カ国合計の大半を占める米国が、TPPにかける期待は「雇用増のための輸出拡大」(オバマ大統領一般教書演説)でしょう。その輸出先がまさに日本。自国の危機を突破するために、日本にもっと買ってもらうという話とみられます。

TPPにアジアの経済大国中国もインドも韓国も参加していません。「アジアの成長力を取り込む」(野田佳彦首相)のは困難と言わざるを得ません。グローバル企業にはメリットがあるかもしれませんが、輸出不振の主因である円高を是正しなければ、それも虚しいでしょう。政府がTPP参加を目指す狙いが今一つはっきりしません。

●秘密主義

ところで、日本は2011年11月に野田佳彦首相が参加協議入りを表明し、政府は交渉をリードする姿勢を強調していますが、9カ国の交渉にはまだ参加できていません。

外務省の「第10回交渉会合の概要」(HP掲載)によると「9カ国は、オブザーバー参加や交渉参加前の条文案の共有は認めないとの従来方針を再確認した」とのこと。

つまり、条文の内容すら非公開。資料・議事録などは一切公表されていません。その一方で、昨年11月12日発表の交渉参加国首脳声明は「9カ国間で大枠の合意に達した」(米国大使館HP)というわけですから、日本はまさにカヤの外です。

日本政府は9カ国との間で個別に事前協議を進めていますが、米国議会の承認まで3カ月かかるとみて、仮に6月末に正式交渉参加しても、7月に「実質合意」するなら、日本に交渉の余地はほとんどない、つまり、完成した協定を飲むだけとなる可能性が高いと言わざるを得ません。

ニュージーランド外交貿易省のシンクレア主席交渉官によると「協定が発効してから4年間、または発効に至らなくても最後の交渉会合から4年間は文書を秘密扱いとする」(政府公式サイト)という合意ができています。民間どうしの契約ならともかく、国家間の協定をここまで秘密にすることが必要なのでしょうか。

TPPの詳細な内容とともに、日本が守るべき「国益」とは何か、TPPで国益が守れるのか、などを国民に具体的に示し、国民議論を十分するのが先決でしょう。先に進むか否かの判断はその後でいいはずですよ。

(注) ※1 FTA=Free Trade Agreement

※2 P4=Pacific four

※3 ISDS=Investor-State Dispute Settlement

※4 米国産牛肉の輸入規制=日本は、牛海綿状脳症(BSE)の感染防止策として、米国産牛肉の輸入を月齢20カ月以下に規制しているが、米国側はこの規制を撤廃するよう求めている

※5 食品添加物・残留農薬基準=日本は作物収穫後に使う農薬(ポストハーベスト農薬)の使用を認めておらず、輸入農産物に使う防かび剤などは「食品添加物」として認めているが、米国側は基準緩和や検査簡略化を求めている

※6 遺伝子組み換え食品の扱い=米国企業は、遺伝子組み換え食品と非組み換え食品は「実質的に同等だ」との立場から、いずれも表示しないよう求める姿勢

※7 NAFTA=North America Free Trade Agreement

※8 ICSID=International Center for Settlement of Investment Disputes

※9 EPA=Economic Partnership Agreement(経済連携協定)

■久田 徳二(ひさだ とくじ)氏 プロフィール

名古屋市出身。北海道大学農学部卒業。北海道新聞社、本社政治部、東京政経部などを経て現職。入社後、米カリフォルニア大客員研究員として「持続可能型農業」を研究。現在は一次産業、アイヌ民族、北海道史などの分野で取材執筆。著書に「そらち炭鉱遺産散歩」「自治が広がる」など。54歳



食の思い出の季節の話題

のつれづれ日記



私のおばあちゃん

沖縄県那覇市 太田 愛子

今年89歳になる私の祖母は、市場に買い物に行き、大根・かぼちゃなど重たい野菜も根性で買って帰り、夕ご飯を作ってくれます。また、プールに週2回、編み物教室に週1回通い、趣味は裁縫で習い事のない日は同級生が遊びに来たり、とにかく毎日楽しく忙しく過ごしています。若い頃の祖母はバリバリ働く女性でした。最初は小学校の教師をしていましたが、戦後まもなく那覇の中心部の商店街で化粧品の販売を始め、70歳前まで続けていました。半世紀も前の時代に深夜0時頃までお店を開け、毎晩帰ってくるのは子供たちが寝てから。翌朝起きるのは子供たちが学校に行ってからでした。子供達の食事や教育はお姑さんが行ない、母親として子供達にご飯を作ったことはほとんどありませんでした。実は、うちのおばあちゃん、年の割には料理が得意じゃないんです…。若い頃にコーラを飲み過ぎ、昼ごはんを毎日食堂で食べた結果、糖尿病になったほど、ジャンキーな食生活を送ってきたようです(笑)。今は家族の夕ご飯を作ってくれ、とても助かっています。でも時間を気にせず作るため、とてもマイペース。

ある日、私が仕事を終え夜9時頃に帰ると、得意料理のていびち(豚足)のお汁を作ってくれていました。ただ、まだ下ごしらえの最中で、これからさらに3時間以上煮込まなくてはならず、出来上がったのは深夜…。文章にすると大したこと無い気もしますが、こういうことが品を変え頻繁に起こります。そして、お腹が空いている私は早く食べたい一心で「もっと手早く作れるメニューにしたらいいのに！わざわざ時間がかかるものを作るなんて…」と愚痴を言いながらも、手伝わざるを得なくなります。そのおかげか、祖母が作る料理を未熟ながらも習得しつつあるような気がしています。

今の我が家は、雨風もしのげエアコンもある快適な家に暮らしていますが、終戦直後は同じ場所に、米軍からもらった材木とシートで簡易の家を作って生活していたそうです。空襲と、沢山のものを失ってしまった時代をくぐり抜け、今は点けっぱなしのテレビの部屋でグウグウと寝ている祖母。しかも何故か枕もとには食べかけの食パンが裸のまま転がっている、そんなリラックスきった祖母を見ると、この先大変なことがあっても何とかなるような、何とかすることが出来るような…そんな前向きな気持ちがわいてくるのです。



北海道の食レポート
地域の食に



お店を
紹介します

AO's DINING【アオズダイニング】

フードプロデューサー 青山 則靖

私が「食」の仕事に携わるようになったのは高校時代のアルバイトがきっかけでした。飲食店で働くうちに「食」の奥深さや楽しさを知り、卒業後に日本料理店に就職。下積み時代を経て、和洋中さまざまな飲食店で料理の技術を磨いてきました。また、飲食店時代には大型店の料理長をはじめ、経営的な立場で仕事を任されることも多く、そうした経験は2006年にフードプロデューサーとして独立してから大きな糧となっています。

飲食業は商売ですから、いくらおいしい料理を提供したいと思っても、利益が出ないと成立しません。手間ひまかけてつくられる農作物や魚介類は、収量が少ないこともあって原価率は決して安くなく、特に規模の大きな店舗やチェーンなどでは、安定して確保できる食材や、賞味期限の長い食材が「良い食材」として重宝される現場になってしまいます。そのように利益追求主義に走ってしまうと、北海道にはたくさんの美味しい食材があるにも関わらず、使えるものが少なくなってしまうのです。

私には「美味しい食材を美味しく食べてもらいたい」という強い想いがあります。ですから、自分が独立して飲食店を構えるときには、一年中、同じものを出すのではなく、旬の美味しい食材を使い切れる分だけ仕入れるお店にしたいと考えていました。「美味しい食材」とは、突き詰めると生産者に辿り着きます。その生産者の想いを料理にして、多くの人に届けたい。「AO's DINING」はそうした生産者と消費者をつなぐ架け橋になれるような存在になれば、という思いから開業しました。道産ジャガイモがなぜこれほど美味しいのか、道産のお肉が軟らかくて味わいが深い理由はなぜか。旬の美味しいものを食べるなら、地元の食材が一番です。最近では素材にいろいろと手を加え、味を付け、“厚化粧”な料理も少なくありませんが、私が料理を提供する際に一番心掛けていることは、素材を生かしながらも安心・安全・正直に料理にしたいということです。北海道の素晴らしい食材を“厚化粧”でもなく、“スッピン”でもなく、“薄化粧”な料理に。その化粧品(調味料)もつくり手の顔や製造工程の分かるもの、加工食品も無添加のものを使いながら、北海道の美味しさをこれからも提供し続けていきたいと思っています。

AO's DINING 【アオズダイニング】

札幌市中央区南5条西6丁目ニュー桂和ビル8F TEL (011) 211-6902



大豆プロジェクト報告

「出前大豆料理講習会」

大豆プロジェクトリーダー 五十嵐 美由紀

2月26日、リサイクルと環境雑貨のお店「えこふりい」を会場に、毎年おこなっている大豆料理講習会を今までと趣向を変え「大豆料理ピュッフェ」として開催しました。当日は、あいにくの雪の中18名の方が参加して下さいました。

メニューは、定番の大豆ごはん、大豆ドレッシング、大豆ハンバーグ、ポタージュを始め、トラスト味噌のみそ汁、小粒黒大豆のお茶、デザートはシャーベット、ずんだもち、豆腐レアチーズケーキまで18品。みなさんすっかり満腹状態で「大豆トラストに参加します。」「お友達も誘って申し込みます。」等うれしい声が聞かれ、その場で3名のトラスト参加希望者も出て、実り多い講習会となりました。

今年12年目を迎えた大豆トラストは、46名の参加で118口(236kg)となりました。新聞での一般公募ができず、参加人数は減少したものの、この12年間ずっと「食べ支え」で下さっているトラスト会員のみなさんと、厳しい気象変動の中「作り支え」で下さっている生産者の努力に感謝しつつ、今年度も無事終了することができました。

来年度も岩見沢市「北村砂浜地区21世紀協議会(34戸)」の、遺伝子組み換えの心配のない、おいしいトラスト大豆の「作り支え・食べ支え」運動の輪を広げて行きたいと思います。



小麦プロジェクト報告

「小麦プロジェクト10年を終えて」

事務局 葦島 礼子

最終年度となったトラスト事業は、3月11日(日)のトラスト関係者(生産者、製造・流通業者、消費者)が一堂に会した意見交換会と10年の想いを込めた製品と小麦通信40号目を3月21日に152名の会員の皆さんの元にお届けして、全ての事業を終了しました。

小麦トラスト発足の前年2001年に自給ネット会員有志29名により一連のシミュレーションを行いました。数回に亘る製品選択、製粉工場と小麦畑視察等の現地学習やモニター会議を重ねて2002年スタートしました。「この地域のこの生産者の指定された小麦だけを20tミル(この時まで1tミルは開発中)で製粉する」。全量買い上げる事など不可能な組織でしたが、JAや製粉会社の両輪に支えられて、実現できた全国初の小麦トラスト運動でした。

自然界は生き物です。生きていく為の食料を長い歳月をかけ、品質改良に挑む農業試験場や農業改良普及センター、JAそして、生産者の営みがあってこそ、食料基地北海道があること学び又、消費地と生産地の距離を近づけ、顔の見える関

係を築いてきました。「作り続ける生産者」がいてくれるから、私たちは安心して食べ、生きている。地元北海道の農産物を「食べ続ける」事が自給力を高める一歩であることを、トラスト参加者の皆さんからこれからも広めてくれることを確信しています。一部の方ですが参加者の声をお伝えし、10年間の活動を終了します。

- ☑道産品を意識して購入しています。作り手や中間の製粉会社を知る事ができ、ファームレターや小麦通信で生産者の苦労や大変さも分かりました。終了は本当に残念です。
- ☑「種まきから収穫」企画に参加体験し、生産者の大変さが身をもって感じました。製品を堪能し、小麦を更に理解できたようです。
- ☑トラストメーカーの商品をスーパーの棚で見かけると親しみが湧くようになりました。



食育プロジェクト活動報告

事務局長 大熊 久美子

食育プロジェクトは、早くも2012年度の食育講座に向けて活動を開始しました。2月下旬と3月中旬の2回のプロジェクト会議で、2011年度活動の総括、2012年度講座の日程と内容、2012年度のスタッフ体制などを検討し、それぞれ決定しました。

2011年度の反省点から、今年度は①現地学習は農場体験の1回だけとし、5回の講座はエルプラザで行い学習内容を深める。②スタッフは1班2名体制とし、基本的に6回を通して参加する、などとしました。

また、2012年度も継続して実施したい事としては①今年度のテーマを決め1回ごとの講座で学習を深めていき、最終的に今年度のテーマをしっかりと学べるようにする。②子供たちが自分たちで考えて行動できるようにスタッフが導く、などです。3月中にちらしを作成し、4月から受講生の募集、そして6月から講座を開始します。

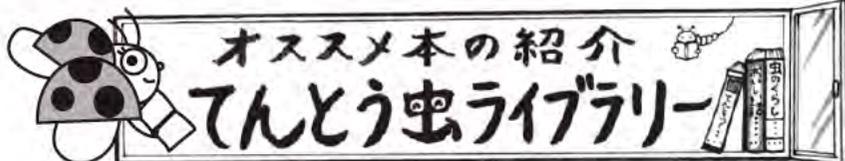
食育プロジェクトは今年度も「楽しくしっかり学べる食育」を目指して活動します。

2012年度のスケジュール

・テーマ：大地と海からの贈り物、栄養たっぷり『旬』の食べ物

・講座日程と内容：

- | | | |
|-------|-----------|---------------------------------------|
| 第1回講座 | 6月23日(土) | 料理の基本から学んじゃおう |
| 第2回講座 | 7月21日(土) | 比べてみよう「味」と「栄養」 |
| 第3回講座 | 8月25日(土) | いざ、鶏と野菜たちの農園ワールドへ
(現地学習：岩見沢市 白石農園) |
| 第4回講座 | 9月29日(土) | 北海道の旬な魚たち |
| 第5回講座 | 10月27日(土) | 北海道の豆は日本一！ |
| 第6回講座 | 11月24日(土) | 旬と身体の不思議なつながり |



「ありあまるごちそう 世界が餓えていくメカニズムがわかる」

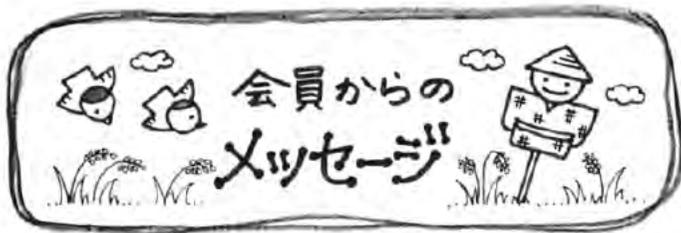
共著 エルヴィン・ヴァーゲンホーファー
マックス・アナス

武田ランダムジャパン 2011年発行 1600円(税別)

2005年のオーストリアの同名映画の書籍版です。野菜、パン、牛乳、肉、魚、水といったそれぞれの生産現場や流通を通して、地球上に起きている飢餓など様々な「食糧の問題」が、実は構造的につくられていたことが描かれています。ヨーロッパや日本などの一部の先進国では毎日大量の食糧が、食べられる事もなくトラックに積み、ごみ処理場に捨てられています。映画の宣伝にも使われた「世界は120億人を養える食料を生産しているのに、毎日10万人が餓えて命を落とす。これは殺人だ」というフレーズが、まさしくこの本の内容を端的に表しています。映画は見ていましたが、あまりにもショッキングなその内容を活字で確認したくて購入し、読んで改めて感じたのは冒頭にご紹介したような歪みをも正当化するのが「市場原理」だということです。いかに原価を下げ、いかにコストをかけずに生産(収穫)し、大量に販売するか。経済の論理、利潤追求は公正であり、グローバル化こそがその利益を最大化させる方法なのです。そして、その結果が120億人を養えるだけの食料を生産しながら、毎日10万人が餓死しているという現実であり、長時間操業する大型船が増えて乱獲し続け、そのあげくの海洋資源の枯渇であり、大量生産のためにゆがめられた遺伝子組換え作物であり、週40万羽ものニワトリをオートメーション化された工場で殺していく現実なのです。「市場原理」はことごとく生命の論理を歪めていきます。私たちの生命はもちろん地球や太陽のいのちの中で生まれています。私たち生命はいのちの仕組みの中でなければ存在できません。

決して、経済＝悪というのではありません。ただ、私たちの生の営みは全てのいのちの規範の中で育まれており、いのちの規範を基にしたうえで経済という価値をも再構築しない限り、果たして、「私たち人間はこの地球の上で生きる価値のある存在であるのか？」さえも疑問に感じます。今、TPPが日本の国の中でもテーブルにのり、経済のグローバル化が進められています。経済の論理からみれば、「日本だけ鎖国するわけにはいかない」ということになるのかもしれませんが。私も「げんきの市場」という店を通して、命を規範にした食の喜びを一人でも多くの方にお届けしたいと願っています。

(埼玉県越谷市 (有)ウレシパモシリ代表取締役 山下 隆豊)



それぞれの「農場理念」を持とう

北広島市 榎タカシマファーム 高嶋 浩一

今の日本の農業はあまりにも国の農政に翻弄されていると言えます。

特にここ北海道では規模の大きさゆえ、なおかつ政府管掌作物への依存の度合いの大きさゆえに、なお更の感があります。

私はこういう時こそ自分、そして農場の存立基盤を確かなものにしたいと思えます。

ここで真の自立を考えるなら、経営面の独立もさることながら、まず個々の農場の依って立つべき方向、目的がしっかりしていなくてはならないでしょう。そういう思いの中、農業、企業経営者が集まり、みんなで経営理念の農場版を作ろうということになり、1年以上かけて、それぞれの理念ができあがりました。

ちなみに私どもの農場理念は「タカシマファームは家族が楽しく、訪れる人々が楽しく、そして自らが楽しむ交響“楽”の農場として、お米『田園交響楽』を通じて、おいしく健やかに食べることの喜びを提供します。そしてその価値を生み出す田畑は、後代からの預かりものとして大切にします。」というものです。

この理念を柱として6代目後継者共々、米作りを続けていこうと思えます。

「大人の食育はむづかしい」

札幌市 嶋田 直美

突然ですが、食べるのが大好きです。勿論作るのも好きです。食べることに関心のない人が、世の中にたくさんいるということを知ったのは、就職してから。ほんとにビックリしました。農業系大学に行ったこともあり、作ることに食べることにも関心のあるのが当たり前だったのですヨ。

さて、そんな私が「弁当の日」の存在を知ったのは、3年くらい前のこと。瞬間的に「これだー!!」とツボに入りました。ちなみに「弁当の日」とは、香川県のある校長先生の発案で始まった、小学生が自分の弁当を自分で作るというもの。ルールはひとつ「親は手伝わない」。子どもの学校に持ちかける度胸はないので、自分の職場で試すことにして、忙しい大人向けの九州大学方式（1品持寄り）にしました。大人の食育♪とウキウキしながら職場の人たちにお知らせしたところ、「いや、ちょっと…」的な返事ばかり。曲がりなりにも某市農政部、「みんな参加でしょ!」と勝手に思っていたので凹みました。とりあえず毎月1回のペースで開催していますが、同じようなメンバーが参加する楽しいランチタイムと化しています。続けるべきか、やめるべきか…。

「弁当の日」公式サイト <http://www.bentounohi.com/>

NPO法人 北海道食の自給ネットワーク 第8回 総会のお知らせ

日時：2012年4月7日(土)13:30~15:45

会場：札幌エルプラザ 大研修室(4F)

議題：2011年度活動報告2012年度活動計画等

- ・先に郵送しました総会出欠票葉書は、投函済みですか？期日までに必ず投函願います。総会への御出席をよろしく願います。
- ・総会当日は、議案書をご持参下さい。

尚、総会終了後に、さっぽろ市民放射能測定所(はかーる・さっぽろ)代表の富塚とも子さんによる講演会を予定しています。「原発と食の安全について」をテーマに福島第1原発事故後の放射能汚染の実態と食への影響について講演をしていただきます。総会終了後も引き続き、講演会にご参加下さい。

☆事務局から 2011年度会費納入のお願い☆

3月20日現在、2011年度会費をまだ振込まれていない方は、至急振込みをお願いします。尚、総会当日も会費の受付を行っています。



3月も終わろうとしているのに、今年は春の訪れが随分と遅いようです。この冬は、小麦トラスト生産地の岩見沢市内の降雪映像が毎日のように放映されていました。過酷な季節ほど身近な人たちや被災地の皆さんの様子が案じられてなりません。1年が過ぎようとしているのに未だ安心して暮らせぬ被災

地の現状に、当たり処のない怒りが湧いてきます。☆500年、1000年周期で起こる地殻変動…今が「その時」とは誰も思わなかったことでしょう。「あの時に」ではなく、起こり得る危機として、日頃から心がける必要を、今回の大きな犠牲者の中から教えられました。☆会報51号では、PTTからお弁当論まで、様々な切り口から皆さんの警告が聞こえてきます。今、私たちは地元の物を安心して食べられることの幸せ、喜びを未来ある子どもたちに伝え続けていかなければなりませんね。総会後の富塚さんの講演からきっと何かが得られると思います。☆高く積もっていた雪も融け、間もなく大地から柔らかな芽が顔を出してきます。さあ、足元をしっかり見つめ直していきましょう…。

(事務局 荻島 礼子)